

平成 29 年度第 3 回 図書館利用者懇談会記録

名 称	平成 29 年度第 3 回 図書館利用者懇談会
日 時	平成 30 年 3 月 10 日 (土) 午後 2 時から午後 4 時まで
会 場	心身障害者センターあいアイ館 会議室
出席者	25 人 内訳 利用者 16 人 区側 (図書館・事務局) 9 人 八雲中央図書館長、庶務係長、事業計画係長兼大橋図書館長、運営担当係長兼緑が丘図書館長、資料係長兼目黒区民センター図書館長兼守屋図書館長、サービス係長兼目黒本町図書館長兼洗足図書館長、貸出・予約係長兼中目黒駅前図書館長、事務局 (庶務係員 2 名)
懇談会次第	1 開会 2 八雲中央図書館長挨拶 3 「図書情報システムの更新について」及び「緑が丘文化会館臨時休館のお知らせ」について 4 利用者懇談 テーマ:「知・文化の拠点としての図書館づくり」 5 その他 事務局からのお知らせ等 6 閉会
配付資料	資料 1 図書館情報システムの更新について 資料 2 緑が丘文化会館臨時休館のお知らせ 資料 3 目黒区立図書館基本方針 資料 4 平成年 29 度第 2 回図書館利用者懇談会記録 資料 5 平成年 29 度第 2 回図書館利用者懇談会アンケート結果 資料 6 アンケート用紙

主要な発言

1 開会

2 八雲中央図書館長挨拶

日頃より目黒区立図書館をご利用いただき感謝を申し上げます。また、本日はお忙しい中、懇談会にお越しいただき御礼申し上げます。短い時間ではあるが、皆さんのお話を直接お伺いできる貴重な場と考えている。どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。いただいたご意見、ご感想、ご要望は、直ぐに対応できないものもあるかと思うが、全て重要なものと受け止めて今後の図書館運営の参考にさせていただければと思っている。

(出席職員自己紹介)

3 「図書情報システムの更新について」及び「緑が丘文化会館臨時休館のお知らせ」について

■ 図書情報システムの更新について

平成 29 年 12 月 29 日から平成 30 年 1 月 9 日まで図書館全館を休館し、システムの更新を行

なった。その間は、図書館ホームページの利用も停止となったため、利用者の皆さんにはご不便をお掛けした。ご理解に感謝を申し上げます。主な更新の内容としては、リース切れとなったシステム機器の入れ替え、システムのセキュリティー強化、図書館ホームページのリニューアルである。ホームページの主な変更はつぎのとおりである。

- スマートフォン画面の対応
 - 翻訳機能の充実
 - ウェブ・アクセシビリティの向上（高齢の方や障害者の方も利用しやすいよう、記号やマークのを用いてわかりやすい表記）
 - 「やさしいブラウザ」機能で色調や文字の大きさなど調整が可能
 - こどもの年齢に合わせたふりがなを振る機能を追加
 - 守屋善兵衛氏（守屋図書館の土地の寄贈者）の資料コーナーを目黒資料のページに追加
- 短期間でのシステム開発でありパッケージソフトを利用したため、全てが皆さんのご期待に応えられる状態ではないが、今後少しずつ機能を追加していきたいと考えている。各ページの操作案内も追加する予定である。

<質疑・応答>

利用者 図書館内の図書館資料検索機（さんまくん）で資料を検索の際に、「障害者資料（録音図書、デージー）については資料相談カウンターへお尋ねください」との表示があったが、これは、どういうことか。以前のシステムでもこの表記はあったか。

図書館 今回のシステム更新では図書館ホームページ内に障害者サービスのページを作成したが、図書館資料検索機（さんまくん）はセキュリティー強化のためにホームページと連動していないため、障害者サービス資料（録音図書、デージー）は館内では検索することができないことから「資料相談カウンターへお尋ねください」とご案内し、職員が対応している。

利用者 障害者サービス資料について、職員へ声を掛けなければ見ることができないのは、利用しづらいのではないか。以前、図書館職員へこの件について伺ったときに、「障害者の方でなければ借りることが出来ない資料まで一覧で表示されてしまうと検索の際にわかりにくいから」と返答があった。今、セキュリティー強化による対応が理由であると聞いて理解できたが、案内の文章は検討してもらった方がよいと思う。

図書館 図書館としては、今回のシステム更新で障害者サービスのページを作成したことで、資料が検索しやすくなり、また、読み上げ機能なども追加したため、障害者の方が以前より利用しやすくなったのではと考えている。PRについては、今後検討する。

■ 緑が丘文化会館臨時休館のお知らせ

緑が丘文化会館の空調設備改修工事が30年9月18日から31年2月4日まで行なわれ、緑が丘図書館もその間、臨時休館となる。この工事は、天井（一部）の改修、照明のLED化も含むものである。期間中は、臨時窓口を設け、予約資料の貸出、資料の返却の受付を行なう。長期間ご迷惑をお掛けすることになるが、ご理解をいただきたい。

4 利用者懇談 テーマ：「知・文化の拠点としての図書館づくり」

図書館 今回のテーマは目黒区立図書館基本方針の中の目指す方向性の一つとして掲げられているものである。資料の充実を図るとともに、地域資料や行政資料の収集・活用・保存に、より一層努め、これらの資料や情報源を生かしたレファレンスサービスに取り組んでいく。地域資料とは、目黒区及び東京都に関する資料のことで、中でも目黒区に関連する資料については積

極的に集めている。ただし、小説までは集めていないため、それも集めたほうがよいかなど皆さんのご意見を伺いたい。

利用者 図書館基本方針やそれに向けた取り組みについてはわかる。その中でも、現在の図書館の限られた資源の中で、どれを優先して行ないたいとか、要望はあるが現状ではできないなどを議論の先に示してほしい。そうでないと議論が拡散してまとまらないのではないかと思う。

今、図書館が行おうとしていることがあれば、それについて議論した方がよいのではないか。

図書館 先程、地域資料の収集の範囲について伺いたいと申したのは、図書館が一方的に決めて収集するのではなく、利用者の皆さんのご意見も伺いその結果を資料収集の際の検討の参考にさせていただければと考えるからである。利用者懇談会の場合は、結論を出すということではなく、あくまでも皆さんのご意見を率直にお聞かせいただく場として位置づけさせていただいている。先程の地域資料収集のことに加えて、デジタル化した方がよい地域資料などもご意見を伺えたらと思う。

利用者 デジタル化という言葉が出たので述べるが、貸出券の中に自分の借りた本や冊数を記録できるシステムを導入することができないか。図書館法に抵触するなど理由があるのか。

図書館 現在使用している貸出券には、読書記録は備えていない。ご自身の気に入った本などを記録したいということであれば、図書館のホームページの中にある「マイリスト（300冊まで）」を活用していただけたらと思う。

利用者 デジタル化といわれても、図書館の利用者は高齢化していてパソコンが使えないため、高齢者は図書館を利用しづらくなっていくのではないかと懸念している。

図書館 紙の資料をデジタル化してその紙の資料をなくしてしまうということではない。一般の書籍と違い地域資料や行政資料のうち古くて傷みややすい資料は一部デジタル化をして保存しておくのがよいのではと検討している。

利用者 「知・文化の拠点としての図書館づくり」の取り組みの中で、地域資料の収集にこだわるのはなぜか。現在の図書館には地域資料のコーナーもあり既に充実しているのではと感じている。

図書館 地域資料は、ほかの自治体で収集していない資料のため、区として積極的に収集していきたい。目黒区についての調査・研究をする際の土台となればと思っている。そのため、改めて「知・文化の拠点としての図書館づくり」の取り組みのひとつとして載せたものである。

利用者 昨日、港区立高輪図書館へ行った。図書館には区民センターが併設されており、区民センターで昔の高輪境界の写真展と都電が廃止になったときの映画の上映会があった。高輪図書館は、区民センターの会議室を使用して地域に関係があるイベントをおこなっている。財政的な問題もあると思うが、このようなイベントも地域興しになってよいのではないか。

利用者 「知・文化の拠点としての図書館づくり」に欠かせないこととして、まずは、誰でも行くことができる便利な場所に、資料数の多い利用しやすい図書館があるということではないか。中目黒の再開発の際に中目黒駅前図書館が出来たが、図書館が狭いため資料数も少なく大変残念に思っている。中目黒駅前図書館については対策を講じてほしいと毎回この場で伝えている。

利用者 先程から「知・文化の拠点としての図書館づくり」というテーマで、図書館側から地域資料の収集のことを訊ねられているが、地域資料を充実させることだけではなくその前に資料を充実させるということがあるはずだ。地域資料に何を望むかということではなく「どのような資料の収集を望むか」と聞いたほうが、参加者も答えやすいのではないかと思う。

利用者 私は、目黒区に生まれ育って今も目黒区で生活している。先程から「目黒区の資料を使っていますか、もっとほしいものはないですか」と図書館から詰め寄られているように感じているが、それは「知・文化の拠点としての図書館づくり」のポイントではないような気がする。本を使った知の拠点となる文化活動という意味では、図書館を巡っていろいろな活動があり人々が結びついている、その点に向かってこの機会に一步踏み出すことの方がここでいう「知・文化の拠点としての図書館づくり」の思案ではないかと思う。先日友人が亡くなった際に、香典返しの代わりに故人が所有していた本を持って行ってくださいと呼びかけたところ、半分以上の本を持って帰ってもらえた。故人の本であるため、形見分けのような意味にもなるのだが、本を通してこのようなこともできるのだと痛感した。また、個人的に本を集める「蔵作り」を考えている。本を処分するときは、古い本ほど処分され、新しい本は再利用される傾向にあるが、私は古い本ほど価値があると思っている。捨てずにその蔵へ持ってきてもらうような仕組みを目黒区内の空き家などを利用してできないかと考えている。100年経ったらきっとお宝になる本もたくさんあるはずだ。

図書館 過去に作家等を招いて「図書館教養講座」を開催したこともあった。しかし、社会教育館が充実し、教養講座については、図書館ではなく社会教育館で行なうようになった。これから、知・文化の拠点として、また、交流の場として図書館が動き出すきっかけのアイデアがあれば、このような場で皆さんに出していただきたい。また、冒頭では皆さんがご意見を出しやすいように「地域資料の充実」について絞り込んで問いかけをしたが、資料全般についてのご意見を伺いたい。

利用者 私は、視覚障害を持っており、目黒本町図書館の障害者サービスを利用している。以前目黒本町図書館の職員は点字についても勉強していて、わからないところがあって訊ねるとすぐに調べて教えてくれた。会話をしているのも楽しくて、図書館へ行くのをうれしく感じていた。しかし、職員の対応はだんだんとレベルが低下してきているような気がする。過去に雑誌を読み上げた音訳テープを借りた際にそのテープの読み上げに間違いがあった。後日、職員に訂正を求めたが「中身の訂正については一切応じられない。」と強い口調で断られた。

図書館 他館から借用した音訳テープの誤植について職員が訂正できないと申しした趣旨は、「図書館としてテープの作成元に対し、誤りの箇所をお伝えすることはできるが、訂正を要求することはできかねる。」ということかと思う。しかし、ご指摘いただいた方が職員に強い口調で対応されたと感じられたとしたら、それは大変不適切な対応であり、申し訳なかったと思う。今後はそのような対応をすることがないように注意する。

利用者 図書館内で活動しているボランティアは、図書館で登録・管理されているものなのか。

図書館 図書館内で活動しているボランティアは、おはなし会の読み聞かせボランティアグループ、音訳ボランティアグループ、点訳ボランティアグループ、YA広報誌編集者などの方だが、おはなし会の読み聞かせグループ、音訳グループ、点訳グループのボランティアは、図書館等で開催するワークショップ、講習会・研修等に参加し図書館で活動するボランティアグループとして登録している方達である。

利用者 ボランティアの登録を図書館の事業として行なっていることは知らなかった。図書館法第2条に「図書館とは図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」とあり、後段の「その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること」は達成していない図書館が

多いのではと感じていた。しかし、図書館の事業としてボランティアを養成し活用していると知り、今後も続けていくことで達成していけるのではないかと思った。

利用者 「知・文化の拠点としての図書館づくり」の取り組みとして、先程からの話にもあるように、まず第一は資料の収集である。良い本、そうでない本は各々感じ方がそれぞれであるが、これまでの利用者懇談会で「児童の本は良いと思われる本の蔵書が少ない」と意見が出ている。図書館で本を選定する際は、一部の職員で決めるのではなく、いろいろな視点に立ってよく話し合っ決めていってほしい。次に大事なことは、収集した資料を活用したレファレンスサービスの充実である。相談者の調べ物に対し、調査、応援をすることがレファレンスの仕事である。検索システムの向上と併せて充実させていかなければならない。

利用者 今回の利用者懇談会は、大勢の方が参加され幅広い意見を聞くことができた。「幅広い文化の活動に出会う、知・文化の拠点としての図書館づくり」を目指すためには、図書館の職員だけでなく、利用者も一緒になって考えていく必要がある。利用者間で「知・文化の拠点としての図書館づくり」を一緒に考えるための話し合いをしたい。

5 テーマ以外のご意見等

利用者 昨年大橋図書館で借りた辞書が、今になっても大橋図書館に戻って来ないのはなぜか。また、同じタイトルが2冊並んでいることもあるが、それもなぜか。

図書館 本は返却した図書館の所蔵となるためである。同じタイトルが2冊並んでいることも同様の理由で、同じタイトルの本がその館に返却されたからである。ほかの区では、借りた図書館に戻るところもある。

利用者 図書館の車が館を回っているのは、どのようなことをしているのか。

図書館 先程のように同じタイトルの本が何冊もあった場合に、所蔵していない図書館へ送ったり、他の館から取り寄せた予約の本を運んだりしている。図書館ではその車を配本車と呼んでおり、1日に2便運行している。

利用者 目黒区民センター図書館の構造はバリアフリーになっていない。造りなおしたほうがよいと思うので区長へはがきを出そうと思っている。

6 閉会の辞（八雲中央図書館長）

本日は、たくさんの方にご参加いただき感謝申し上げます。皆さんからのご意見は、今後の検討の参考にさせていただき、より良い図書館を目指していく。

以上 午後4時 閉会